

# 台湾から人吉球磨地域への誘客に向けて

～雲林科技大学MBA視察団からの示唆～

## はじめに

### 人吉球磨で模索する台湾からの誘客

TSMCの菊陽町進出に伴い、今後熊本県と台湾の関係がさらに深まっていくと思われる。一方で、県北に比べてTSMC関連企業の進出が期待しにくい県南では、台湾からの観光面での誘客が図られている。人吉球磨地域でも観光客の取り込みや地域産品の販路開拓などが期待されている。

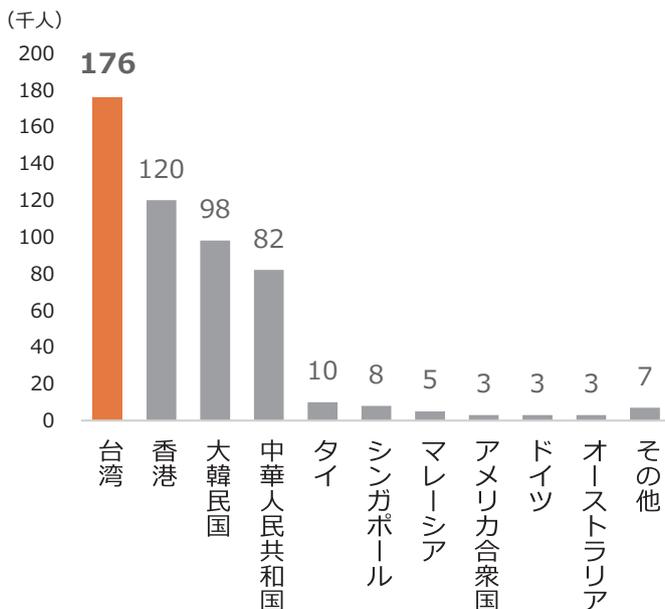
このような中、4月上旬に人吉球磨地域でインバウンド事業を手掛ける金哲氏(㈱アイアイアイ)が企画した台湾の国立雲林科技大学MBAの地方創生コースの受講生と人吉球磨地域の行政、民間事業者との交流会に参加する機会を得た。交流会では、台湾から見た人吉球磨地域の魅力、ポテンシャル、課題解決策などの提言があり、台湾からの誘客について多くの示唆があった。

## 台湾からの訪問

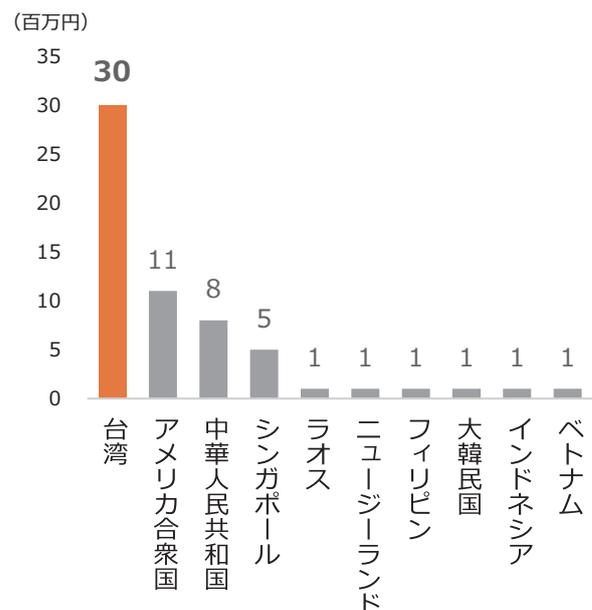
### 台湾との結びつきが強い熊本

台湾と熊本とのつながりを観光面の数字でみてみると、コロナ禍前の2019年に台湾から熊本を訪れた訪問客数は、国・地域別にみると最も多く、17万6千人を記録した。また、クレジットカード消費額をみても台湾からの訪問客による消費額が最も多くなっており、コロナ禍も収まりインバウンドが急速に戻っている中、人吉球磨地域でも台湾からの誘客に期待が高まる。

■熊本県への国・地域別外国人訪問客数 (2019年)



■熊本県での国・地域別消費額 (2019年※<sup>1</sup>)



資料：内閣府RESAS

※1 同年9月の外国人によるクレジットカード消費額を推計

## ■台湾×人吉 雲林科技大学MBAとの「地方創生交流会」

雲林科技大学は、台湾中部の雲林市の郊外に位置する国立大学で学生数は約1万人を数える。同大学は、都市と農村との連携を重視しており、ESGにも積極的に24チームが外部組織と連携し地方創生に取組み、大学としての社会的責任を果たしている。

今回、人吉球磨地域を訪れた一行は、張文山氏（同大副教授）を団長とし、学生や地方創生に取り組む民間企業の代表者など19名で、3泊4日の滞在で多様な事業者や団体と交流した。交流会は、最終日に松岡人吉市長をはじめとした行政関係者や民間事業者等との意見交換の場として設けられた。

台湾MBA側からは、人吉球磨地域の自然や歴史・文化、特産品、観光スポットなど、様々な魅力を再発見するヒントを得られた。人吉球磨地域は球磨川をはじめとする自然と歴史・文化の両方が調和した地域であり、台湾の人々にとって新鮮で興味深い場所として魅力的に映るなどの意見が出された。

ただ、人吉球磨の魅力は台湾からの誘客につながる多彩なもので、もっと世界的な観光地になる可能性があるとした一方で、台湾で“人吉球磨”を検索しても情報が出てこないといった海外における認知度の低さが指摘された。特に言語の壁は大きく、今回の視察を企画した金哲氏のような仲介者の存在が重要で、個人というより行政が協力する仕組みづくりの必要性が挙げられた。この他、空港などからの二次アクセス情報、人吉球磨地域の年間イベントに関する情報などが網羅された台湾向けサービスポータルサイトの開設についての要望が示された。

### ■国立雲林科技大学MBAのみなさん



以降は会員専用ページにて公開しております。

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)